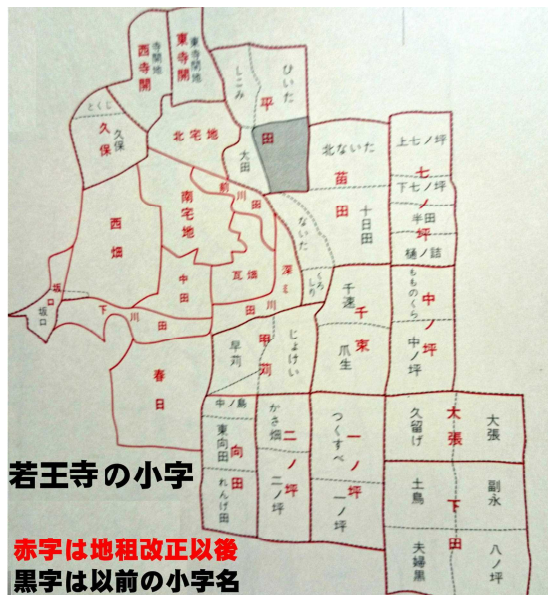


上坂部村の概要

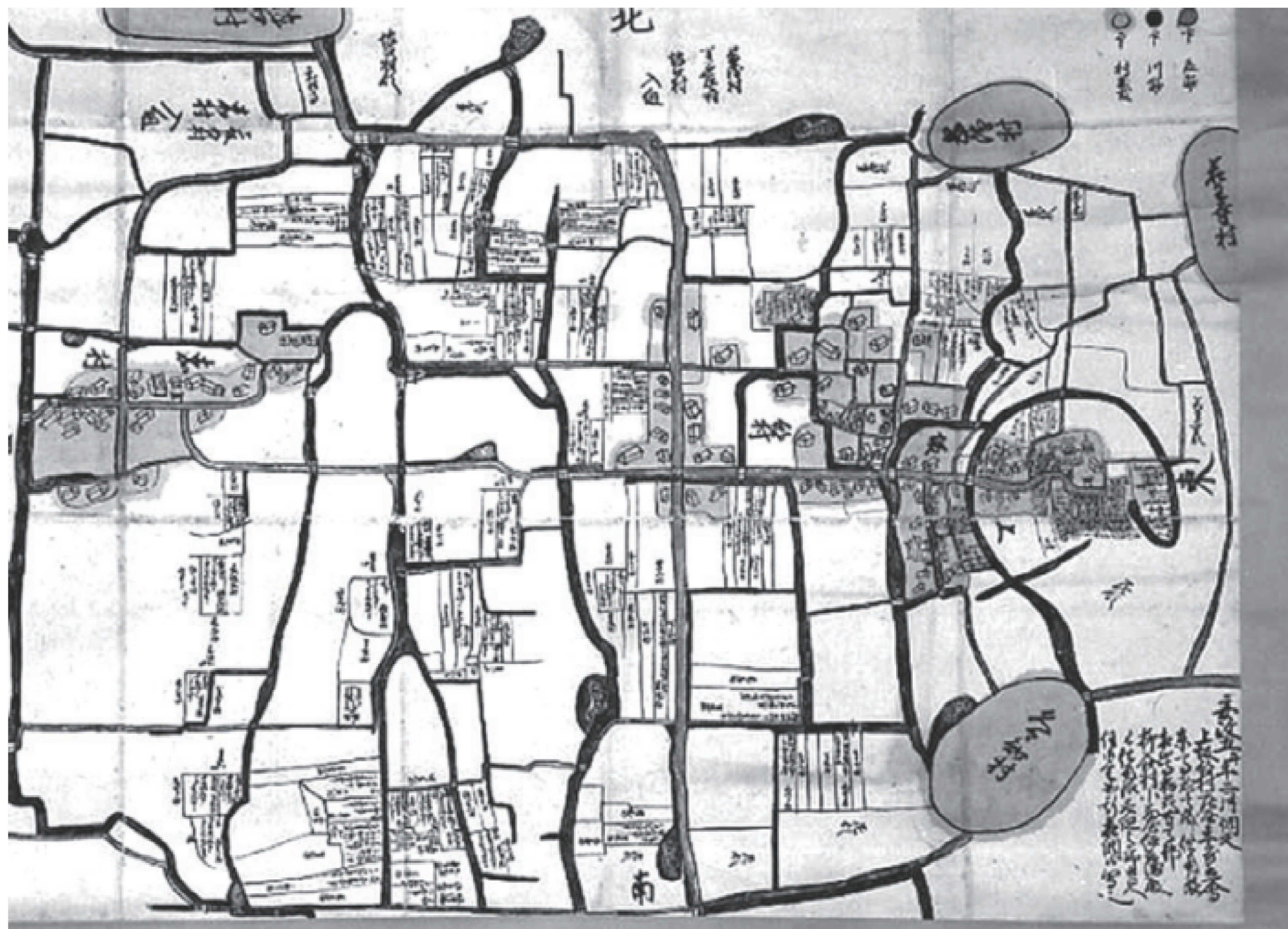
園田地区の大字。市域中央部やや北東、久々知をはさんで下坂部の北西に位置する。上坂部の史料上の初見は1617年（元和3）「摂津一国高御改帳」（『尼崎市史』第5巻）。なお坂部は南北朝時代から史料に見える地名である。近世には1599年（慶長4）旗本船越氏（維貞系）の知行所となり明治に至った。村高は「慶長十年摂津国絵図」「元禄郷帳」「天保郷帳」のいずれにも1,405,25石とあり（「摂津国絵図」は「坂辺村」と表記）、1685年（貞享2）ころ分かれた枝村の森を含んだ高が記されている。三平井組に属した。氏神は式内社の伊佐具神社、寺院は浄土真宗本願寺派西正寺。明治期に上坂部と記される例があるのは、大坂が大阪とされたのと同様であろう。1889年（明治22）以降は園田村、1947年（昭和22）以降は尼崎市の大字となった。1891年に川辺馬車鉄道の塚口停車場（現JR塚口駅）が開設された。1970年～1988年の住居表示により上坂部および、南塚口町・東塚口町の一部となったほか、一部が御園〔みその〕・塚口町・塚日本町。久々知・若王寺〔なこうじ〕となった。（Web版尼崎地域史事典『apedia』尼崎市地域研究史料館より）

上坂部の大字・小字

大字とは集落、昔の村です。例えば、上坂部地区で言えば、森村や上坂部村、若王寺村等です。次ページの絵地図は、江戸時代末期の上坂部村で、周囲には久々知村や若王寺村などの名も見られます。大字をさらに区分したのが、小字です。明治6～8年にかけて、地租改正で小字は整理されました。下図（左）は若王寺村の区割りです。黒字は地租改正以前の小字、赤字は以後の小字名です。小字名は、神社付近にある「堂ノ前」「堂の裏」といったように由来がわかるものもありますが、漢字の意味から推理の域に限るものも多いです。よって、小字名を、その土地の特徴をあらわすものとして、想像してみるのも面白いです。①「ケナシ」の「ケ」は「毛」のことであり（「食満」のケも同じ）、ケが無いということは、作物の実らない土地と考えられます。これは農耕系の地名と考えて良いでしょう。②「無之」は字名が無い土地なので之無し、としたのが起源かも知れません。③「野通」は野に通じる道、その道すじにあたる土地かも知れません。④「丁字」は、丁目と同じで区画といった意味かと思われます。⑤「森ケ橋」は、「森」か「橋」に関係がありそうです。⑥「茶屋田」は、「茶屋」が合ったという説もあります。今でも「茶屋地区」と呼ぶ人もいます。⑦「後藤田」や「多藤田」は、後・藤田、多・藤田と分ける考え方もできます。（協力および資料提供 尼崎市立地域研究史料館 地図は尼崎市史第10巻より）



安政5年(1858年)上坂部村絵図



明治18年測量図

